



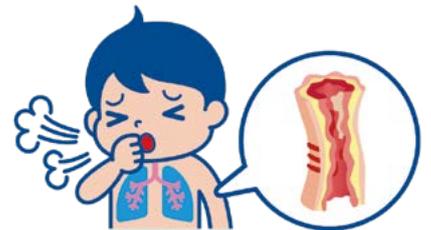
きちんと治しきるまで治療の継続を

小児喘息って どんな病気?

子どもの頃に発症する小児喘息は、子どもに症状があってもうまく表現できないことが多いため、周りの大人が注意深く観察し、気づいてあげることが大切です。そこで正しい知識で、適切なケアを行うために、くわしいお話を小児科の稲川 直浩先生にお聞きしました。

Q. 「小児喘息」とはどんな病気ですか。

A. 病気としては大人の気管支喘息と同じものと考えて頂いて問題ありません。アレルギーを原因として呼気性の呼吸困難を繰り返す病気です。アレルギー反応の結果、気管支の粘膜が腫れ、空気の通り道が狭くなってしまい呼吸が苦しくなってしまいます。



ERCA(C)

Q. 具体的な症状を教えてください。

A. 必要な酸素を取り入れるため、狭くなった通り道を勢いよく空気が行き来するようになります。その際笛が鳴る原理で喘鳴^{ぜんめい}（ゼーゼーした呼吸音）が生じます。また、普段から気管支は吸気時よりも呼気時により狭くなるので、気管支粘膜が腫れた際に呼気性の喘鳴が聴かれ、呼気性の呼吸困難が生じるようになります。



ERCA(C)

Q. 「小児喘息」はどのように診断されるのですか。

A. 特別な検査を行うことは減多になく、聴診器で呼吸音を聴いた際に、呼気時の喘鳴が確認されること、そしてそれを繰り返した場合に診断します。但し、2歳以下のお子さんの場合、カゼの症状として呼気性喘鳴が見られることがあり、慎重に判断することになります。

Q. 「小児喘息」の
発作時の対応を
教えてください。

A. 喘息に限らず、呼吸が苦しそうな場合は救急外来を含めた受診を検討することになります。特に横になって眠れない（座ったり、縦抱っこしていれば眠れるけど、横にするとすぐ起きてしまう）場合はすぐに受診を検討して下さい。

Q. 「小児喘息」の
治療方針を
教えてください。

A. 小児喘息と診断されれば治療が開始されます。目標は、カゼをひこが激しい運動しようが喘息発作が起きない状態をキープすることです。小児喘息は大人の気管支喘息と違い治りやすいと考えられており、治しきるためには喘息発作が起きない状態をキープすることが重要と考えられています。

Q. 横になって眠れて
いれば様子を見る
だけで良いですか。

A. 主治医からの指示が出ていればそれに従って下さい。運動中で苦しそうであれば無理せず運動は中断して下さい。水分を摂らせて休ませると良いでしょう。横になって眠れるなら緊急の受診は不要ですが、発作が治まっても近日常にかかりつけ医を受診して下さい。

Q. 最近、症状はないのですが、
まだ治療継続は
必要でしょうか。

A. 小児喘息を治しきるために必要な加療期間は、発作の程度や頻度によって変わりますが、短くて数ヶ月間、長いと数年間に及びます。小児喘息で治しきるために必要な治療期間と考えられます。主治医と相談・確認しながら必要な間、治療を継続するようお願いいたします。

稲川先生
から
ひとこと



小児科 部長
いなかわ なおひろ
稲川 直浩

喘息の治療は、約30年前に使用できるようになった薬剤の登場で劇的に変化しました。ご両親や祖父母の方々の時代とは治療内容も治療方針も大きく変わっています。その結果、以前は、小児喘息の患者さんは入院したことがある方が多いくらいだったのに、最近では入院したことがある方が珍しい状況となっています。かつては運動制限もよく行われていましたが、最近はどんな運動でも出来るように治療します。治療期間は長くなりますが、「治る病気」と信じて必要な期間、治療を継続して頂ければと思います。